

不托

東哲餅賦曰朝事之饗煮麥爲麵則麵之名蓋自此而出也魏世食湯餅晉以來有不托之號意不托之作緣湯餅而務簡矣今訛爲餠餠亦直曰麵也

〔本朝食鑑穀一〕小麥 麩

集解卽麥粉也本邦麥粉不用春杵惟初磨飛羅以爲麩亦是俗稱温餠粉其磨之三四次飛羅者爲上麩磨之五六次以下爲下麩事詳于温餠素麩條下本邦近時有南蠻菓子十之八九用麩和砂糖餠糖丁子肉桂之類以作乾果其種多品本是蠻國之傳流乎凡中華韓國蠻夷之人常好食麩果以爲平日之賞翫本邦之人不常嗜之

三麩

〔庖丁聞書〕一三羹三麵ともに初羹初麵に生飯にとる時は羹に作花饅頭に龜足杯さす也
〔江戶流行料理通大全初編〕三羹三麵の事

一日本にては三麩は専ら用ゆれ共三羹は中華の沙汰なり○中三麩は汁まんぢううんめんちよくめん是を三麩といふ也

餛飩

〔倭名類聚抄十六〕餛飩 四聲字苑云餛飩渾屯二音上亦餅剉内麵裏煮之

〔下學集下〕餛飩飲食

〔運歩色葉集字〕餛飩字

〔易林本節用集字〕餛飩食服

〔書言字考節用集六〕餛飩唐韻 温餠和俗所用

〔後奈良院御撰何曾〕魚取鳥の物わすれ

〔貞丈雜記六〕一餛飩又温餠とも云小麥の粉にて團子の如く作る也中にはあんを入れて煮たる

物なり混沌と云はぐるくとめぐりて何方にも端のなき事を云詞なり丸めたる形くるく

う。ど。ん。